

会報

50号



函館の歴史的風土を守る会会報
 No. 50 H 7.7.7
 発行所 函館の歴史的風土を守る会
 事務局 函館市五稜郭町43-9
 五稜郭タワー株式会社内(中田)
 電話 (0138) 51-4785
 FAX (0138) 32-6390

急がれる事務局の整備！

大きすぎる工藤氏の空白

★ 総会を終えて

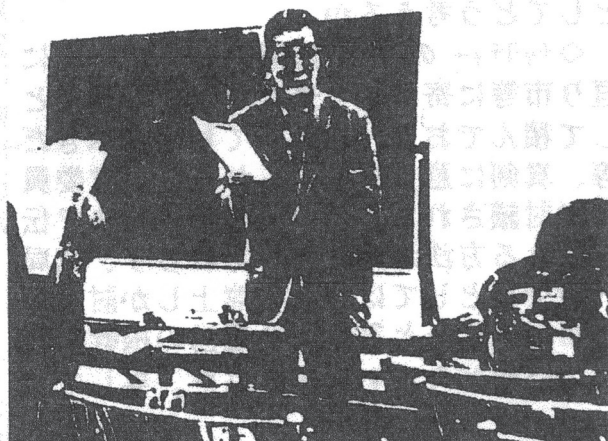
会長 浜島 国四郎

平成7年度の定期総会を終了し、今期のスタートに際し、ご挨拶申し上げます。昨年10月26日、文字通り当会の大黒柱であった工藤光雄事務局長が急逝し、あまりの突然のことで、何にもかも真白になってしまった程、その存在が大きなものでした。

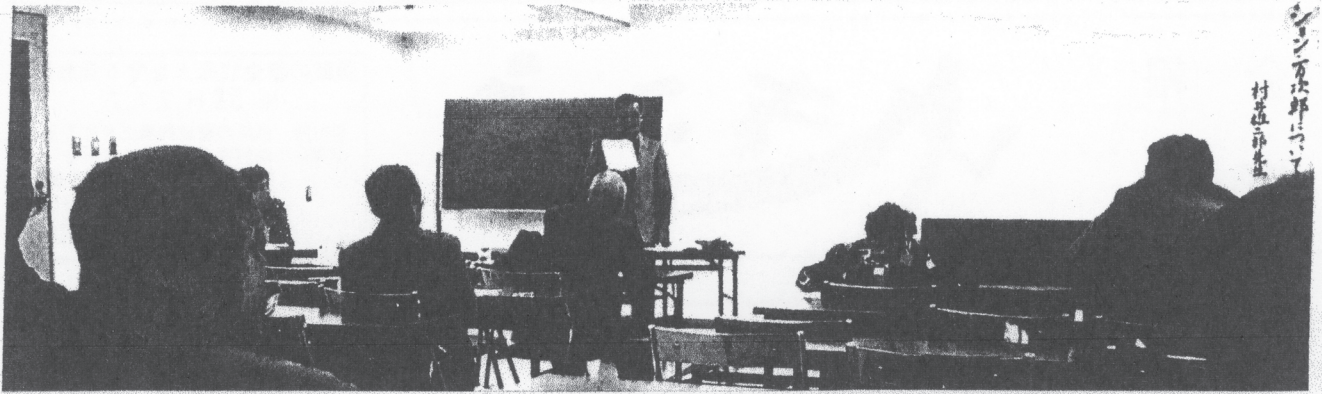
先輩が築き上げたこの会をどう引継いで行くのかと思ひ続け、運営委員会に諮り、本日の総会で原案可決されたことは、とりも直さず、執行部としての責任を問われたことであり、その重大さを感じます。

今後の会の運営について箇条書きにすると1)会の目的・主旨・規約については従来通りの方針でいきます。2)役員は任期中であるから現体制のまま。3)運営委員の中に小委員会を設けます。4)小委員会は該当担当者、会計を含めた若干名で構成する。人選は会長が委嘱します。5)事業は団体会員や企業によるスポンサー等としての協力を保ち得るように努め、広く市民参加の出来るものを目指します。6)「れきふう」の発行は従来の形のを年2～3回発行し「特集号」とし、他に手づくり会報を発行し、会員間のコミュニケーションを計るつもりです。7)会員の声を聞く手段として、五稜郭タワー㈱の御好意でファックス 0138-32-6390 を利用出来るようになり、皆様の積極的な

声をお願いします。8)事務局長の選出が難航しているため、当分会長が代行し、吉村運営委員に補佐していただきます。9)事務局は従前通り、五稜郭タワー㈱〔函館市五稜郭町43-9 TEL51-4785 FAX32-6390 窓口担当者 中田寛顕さん〕に置くことになり中野社長の御配慮に深謝します。10)最後になりましたが、総会に先立つ記念講演会で『ジョン万次郎とその時代』を講演された村井雄二郎先生には会員を代表して衷心より謝意を表します。以上定期総会終了に際し、会のより一層の活性を期し、今後の運営方針を申し述べました。何卒皆様はじめ、関係各位のご協力を心からお願い申し上げます。



★ 総会報告



平成7年度の定期総会は、去る6月10日午後1時より東邦生命会議室で開催された。総会の記念講演は「ジョン万次郎とその時代」と題して、村井雄二郎先生（英語塾経営）を講師に迎え、予定時間を大幅に経過する程熱弁がふるわれた。総会に先立って、浜島会長より、今後の会の運営に関する基本的な考え方の説明が述べられて、議事に入り、全議案が承認された。その他の項で出席会員より質問、意見が述べられたので、主要部分をここに収録し、今後の会運営の指針としたい。◇電柱埋設が西部地区より開始されているが他地域はどうなるのか。

◇旧丸井（市分庁舎）、西警跡、函病の移転、等の建造物の再利用について当局への働きかけが必要である。

◇現在のシステムでは、個人的に何か問題を持っていても、話合いの場がない

◇市指定文化財が増加していないことに対して、積極的な働きかけが必要。

◇谷地頭温泉の増築に伴い、現在の庭園が潰されるようだが、あの庭園は函館公園建設の時、非常に活躍された浅田料亭のものと言われているが、「歴風会」としてどう考えるか。

◇チャリティーの益金は昭和48年より9回に亘り市等に寄付して来たが、少し基金として積んでおき、まとめて利用すべきだ等、真剣に意見が述べられた。運営委員会で討議されたことが、一般会員まで伝達される方法が確立されておらず、結局一般会員としては総会の席上しか討論参加が出来ないと言う。会運営の根幹に関わる問題が今年も提起された。果して、

会報の発行回数の増加、小委員会（プロジェクト・チーム）を創設しても、通常のサークルの「例会」に該当する部分が決如している当会の運営組織では、どの位カバー出来るのか疑問視されよう。ここ二・三年痛感していることは、あまりにも出席者が少ないことである。日程やその他の再検討も課題として浮上してくる。

★ 礼状

この度は、お心のこもったお見舞をいただきありがとうございました。旧居留地、酒蔵地区等、神戸市内の歴史的まちなみをもつ地区が、壊滅的な打撃を受けた中で、幸いに北野・山本地区は異人館数棟が一部損壊程度の被害を受けたにとどまっております。しかし、まだまだすべてが混乱しており、北野でも文化財に指定されている異人館につきましては何とか再建のメドがたちましたものの、それを今後どのように保存していくのか、あるいは指定外のものをどう救っていくのか、問題は山積しております。

皆様のお心遣いを励みとして、がんばってまいりたいと思っております。御浄財をお寄せいただきました皆様に、くれぐれもよろしくお伝え下さいませ。取り急ぎお礼申し上げます。三月十六日

函館の歴史的風土を守る会

会長 浜島 国四郎様

北野山本地区を守り、育てる会

会長 浅木 隆子

★ 特別記念講演

『ジョン万次郎とその時代』村井雄二郎

215年間、幕府の鎖国政策によって全く世界から孤立していた日本にも、ようやく諸外国の情勢の変化に対応するきざしが見え始めてきた。万次郎が14才の時、漁船が遭難し、鳥島で米国捕鯨船ホット号(ホットフィールド船長)に救助され、アメリカに渡り、教育を受け、10年後、琉球(現沖縄)に渡り、藩主島津斉彬に会う。1853(嘉永6年)ペリー艦隊4隻が浦賀に来航した時、オランダ語が主力で、万次郎は幕府に取立てられた。しかしペリーの応接には捕鯨事業に関心を持ち、幕府の軍艦操練所教授の万次郎を箱館丸(箱館で作られた日本最初の西洋型帆船)の総指揮者として箱館へ送り込んだ。しかし、箱館にあった「調術調所」の教授武田斐三郎以下の元気旺盛な学生達が江戸から派遣された万次郎を拒否し、箱館丸の乗組員達も拒否した。万次郎はなす術もなく陸路江戸へ戻ったと云う。当時箱館港には多くの外国捕鯨船が入港しており、捕鯨は銆の時代から「ボソフ・ランス」(捕鯨銃)の時代に移っていたにも拘らず、万次郎は銆捕鯨の技術より知らなかったことがその理由とも云われている。現在でも、中浜万次郎の末裔とホットフィールド船長との子孫が、150年を経た今でも交際していると云う話もある。

《ジョン・万次郎》プロフィール

中浜万次郎 1827-98(文政10-明治31)
幕臣、土佐国中の浜に生まれた漁師であった。1841(天保12)出漁中遭難、アメリカ捕鯨船に救助され、アメリカで教育を受け、'51年(嘉永4)帰国する。'60年(天保1)新見正興らの遣米大使節に通弁として随行。'64年薩摩藩に招聘され軍艦操練・英語を教授し、'69(明治2)徴士として新政府に出仕、開成学校教授。'70年山形有朋らと普仏戦争観戦のため渡欧したが病氣を得て翌年帰国す。

角川 日本史辞典



1995年(平成7年)6月8日(木曜日)

赤レンガ
倉庫街
景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

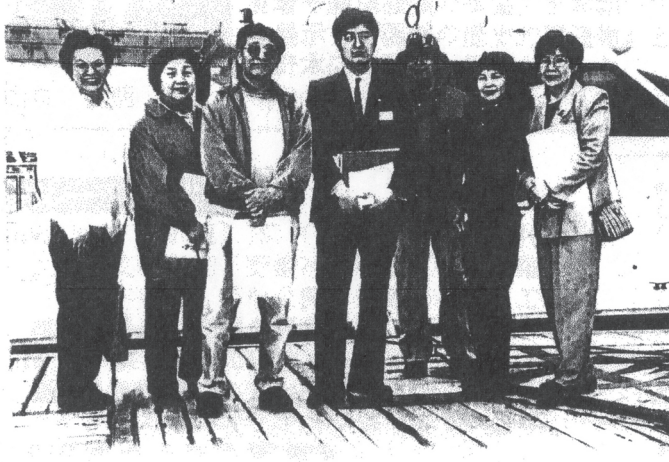
景観向上へ「さよなら電柱」

秋から電線類埋設

西部、中心に
来年度も予定

トピクス

《港湾めぐりを実施》



去る5月30日、函館港湾建設事務所、数土勉所長の案内で、新装なった「みずなぎ」号による港湾めぐりを行った。

ウォーターフロント開発に直面している函館港では、どうしても海から陸の眺望が、重要なポイントとなるため、歴風会では将来、船舶による港湾めぐりを検討している。今回はその下準備を兼ねたものである。一行は所長より約20分位、港湾施設の説明を受けて乗船開始、中央埠頭・万代埠頭・北埠頭・港町埠頭を経て北防波堤より港外へ出て穴澗に向かったが、風波が強く、急遽、西防波より港内に戻り、旧函館どつく、西埠頭地区、緑の島、豊川埠頭等をめぐって、出発地点の海岸町船止りまで着いた。

旧函館どつく跡地の岸壁は、北海道南西沖地震による被害がそのまま残されて居り、「青函博覧会」の会場であったことを想像出来ない状態であった。七重浜地区を含む第三防砂堤まで、開発局による港湾整備が急ピッチで進められて居り、函館港の港湾機能は着実に高められていることを実感出来た。反面、埋立てによって海岸線が、だんだんと沖に出され市民との距離が遠のくことに一抹の寂しさを禁じ得なかった。

インフォメーション

- ☆ 平成7年7月28～30日
「第11回水郷水都全国会議・横浜」
於：横浜市教育文化ホール
- ☆ 平成7年8月19～20日
「小樽まちなみゼミ」
〈小樽再生フォーラム〉創立10周年記念
於：小樽市民センターホール
- ☆ 平成7年9月8～10日
「第18回町並みゼミ」
於：妻籠
- ☆ 事務局のファックス
事務局 函館市五稜郭町43-9 五稜郭タワー1階内
電話51-4785・FAX32-6390 窓口中田

グループだより

- 〈おおの〉 NO.34 (大野文化財保護研究会)
「郷土大野の誕生」発行
- 〈町なみ通信〉 第17号 (全国町なみ保存連盟事務局)
竹田会長逝去で連盟運営は五十嵐氏が代行する。
- 〈Ponte〉 NO.4 (95春号) (腰間橋をあげる会)
特集：日本の宝 鹿児島島の五大石橋は何処へ
- 〈有松〉 第32号 (有松まちづくりの会)
竹田会長を偲ぶ
- 〈越浦〉 第5号 (坂越のまち並みを創る会)
「坂越まち並み館」オープン

ピックアップニュース

- 会員に耳よりのニュース
- ◆「旧函館支庁庁舎 絵はがき」
5組以上お買上げの方
1組 (5枚入り) ¥300円
- ◆「はこだて史譚」
- 会田金吾郷土史論集 -
1冊2,000円を会員特別
頒価¥1,600円(送料込)
- ※ぜひ、周りの方々にもお進めしてください。
- お申し込みは 浜島 52-0856
加賀谷 52-6094